

ポリファーマシーについて

「ポリファーマシー」とは、「Poly」＋「Pharmacy」で“多くの薬”のことですが、単に服用する薬の数が多いことではなく、**薬を多く服用しているために、副作用を起こしたり、きちんと薬が飲めなくなったりしている状態のこと**をいいます。

特に高齢になると、複数の持病を持つ人が増えてきます。そして、病気の数だけ処方される薬も多くなります。厚生労働省による「2014年社会医療診療行為別調査」によると、75歳以上の方の4割は、5種類以上の薬を処方されているそうです。

高齢者では、処方される薬が6種類以上になると、副作用を起こす人が増えるというデータもあります。薬の副作用が多くなる理由は、薬の種類が多い事だけではなく、加齢によって肝臓や腎臓の働きが弱くなり、薬を分解したり、体外に排泄したりするのに時間がかかるようになるため、薬が効きすぎてしまうことがあるのです。

高齢者に多い薬の副作用

- ・ふらつき、転倒
- ・物忘れ
- ・うつ
- ・せん妄(頭が混乱して興奮したり、ボーっとしたるする状態)
- ・食欲低下
- ・便秘
- ・排尿障害 など

薬が多いからといって必ず減らすべきというわけではありません。気になる症状があった時は、医師又は薬剤師に相談しましょう。

気になる症状がある時の注意点

★自己判断で薬の使用を中止しないようにしましょう

気になる症状があっても、勝手に薬をやめたり、減らしたりするのはよくありません。薬によっては急にやめると病状が悪化したり、思わぬ副作用が出る場合があります。

★医師・薬剤師に使っている薬を必ず全部伝えましょう

複数の医療機関にかかってもらっている薬や、市販薬や健康食品、サプリメントを服用している場合も、全て正確に伝えましょう。

ポリファーマシーになる典型的な例は、**多病による複数医療機関・診療科の受診**です。

新たな病状が加わる度に新たな医療機関又は診療科を受診していると、それぞれ2、3剤の処方でも足し算的に服用薬が積み重なり、ポリファーマシーになります。

また、新たな病状が薬による**有害事象**※であっても、薬剤で対処することで薬が増え、ポリファーマシーになる場合もあります。

※有害事象とは？

薬との因果関係ははっきりしないものを含め、薬物を投与された患者に生じたあらゆる好ましくない症状、病気のこと

ポリファーマシーを防ぐためには、日頃からかかりつけ医師や薬剤師を持って、処方されている薬の情報を把握してもらっておきましょう。

また、自分の処方されている薬がわかるように、お薬手帳を持ちましょう。**お薬手帳は1冊にまとめておきましょう。**

参照：日本薬剤師会パンフレット「あなたのくすりいくつ飲んでいますか？」「高齢者が気を付けたい多すぎる薬と副作用」厚生労働省「高齢者の医薬品適正使用の指針」